

2018年5月24日(木)

英会話道場イングリッシュヒルズ  
文書教材

レッスン日記の傍観者ではなく「当事者・登場者」になる受講生が、  
しっかりと「国際的教養・品格」を養うことができる

生井利幸

## 第一部

当・英会話道場イングリッシュヒルズのレッスンを最大限に満喫する方法は、受講生が、講師であるわたくし生井利幸に「自分の心」をしっかりと預けて、受講生自身がレッスン日記の「当事者・登場者」になることです。

すべての受講生が勉強している当教室の重要教材の一つ、「レッスン日記」は、2018年3月からスタートした重要教材です。この教材を執筆・作成している今現在は2018年5月ですので、レッスン日記の執筆・掲載をスタートして、実に、「丸10年」が過ぎました。

受講生の皆さんが「レッスン日記」を勉強しているとき、レッスン日記の記述内容についての傍観者になるのではなく、記述を精読しながら、「自分自身が、その記述内容に飛び込んでいく」というメンタリティーがあると、勉強の質が劇的に向上します。

レッスン日記は、単にそれを勉強するだけでなく、自分自身も記述内容に参加し、記述内容の当事者になると、より濃厚な勉強の成果を見出すことができます。

迎える 1 週間において、実際のレッスンを終わったら、その日のうちに、次のレッスンの準備としてレッスン日記を精読し、それをノートに整理。レッスン日記の記述内容について、1 週間をかけてしっかりと心の中で温めておくと、確実に、その内容が自分の心の中に浸透します。

その後、次のレッスンを迎え、講師が行う「レッスン日記の講義」を受けると、講義自体が英語でも、まるで、日本語で受講しているかのように、スッと心の中に入り、通常では実現不可能と言えるほど、講師の英語がかわるようになります。

レッスンに慣れてくると、感覚が麻痺して盲目になってしまいますが、実際、相当期間にわたってレッスンを受けてきた受講生でも、レッスン日記について事前学習することなく新しいトピックについて講義を受けると、講義の理解度は“かなり低いもの”となります。講師の講義がわかりやすい理由の一つは、受講生自身が、しっかりと事前学習している所以（ゆえん）です。

レッスン日記の当事者になる受講生は、確実に、「国際的教養・品格」を養うことができます。そして、さらにもう一つ明言できることは、当事者になることで満足するだけでなく、レッスン日記の「登場者」になれるように、毎日、猛勉強を続けていくと、自己の劇的な改善・向上・発展を実現できます。

実際、2008 年 3 月以来、レッスン日記に登場した受講生について回顧してみると、レッスン日記への登場回数が多ければ多いほど、ご本人において、「劇的な能力の改善・向上・発展」を実現しています。

## 第二部

出身国にかかわらず、通常、英語スピーカーは、英語を「知識」(knowledge)で喋ります。ところが、わたくし生井利幸においては、英語を「心」で喋ります。

受講生が、さらに質の高い学習を行う上で極めて重要なことですので、再度、述べます。生井利幸は、一事が万事において、「心」で英語を喋っています。

生井利幸は、

「心で英語を発するそのプロセスにおいて、心の中に存在する『受講生に伝えたいその内容』について、最も鮮明に、且つ、具体的な形で伝えるために、頭の中の知識の一部を借用する」

という自己表現法を用いています。

レッスンにおいて、講師が発する英語がスッと受講生の心に入っていくのは、講師が、このような自己表現法の下で英語を発しているからです。

逆に述べるならば、知識で喋る英語は、聞き手の心の中にそう簡単には入っていきません。その理由は、知識で喋る英語は「無感情」(no feeling)であるからです。

講師の英語を最も良い状態で「心」と「体」に吸収するためには、受講生自身が、「自分の心をしっかりと講師に預ける」ということが重要なポイントとなります。講師は、「心」で英語を喋っています。「心」で喋る英語だからこそ、受講生の皆さんにおいては、無理なく、自然なムードで、講師の英語が理解できるのです。

受講生の皆さん、すべてのレッスンにおいて、「レッスンの『傍観者』」になるのではなく、「レッスンの『当事者』」になってみましょう。レッスンを存分に楽しむ秘訣は、「自分の心」を講師に預け、レッスンの当事者として、講師と「心の旅」を楽しんでしまうことです。

講師は、常に、「公平無私な学問の精神」を基盤としてレッスンを行っています。受講生の皆さんにおいては、安心して、どのようなことでも話をしてみてください。心の中にあることを正直に話すことにより、やがて、何らかの「より良い方向性」が見えてきます。講師は、常に、受講生からどのような話が出てもいいように「心の準備」をしています。